

# 茂木敏充 日本国外務大臣

## 日・ラオス協力関係を語る

2020年8月22日から24日までのラオス公式訪問を控え  
茂木敏充日本国外務大臣による特別寄稿



(上) 2020年7月9日、第13回日メコン外相会議で共同議長を務めた茂木外相

今回、外務大臣として初めてラオスを訪問します。前回は2014年4月、経済産業大臣としてラオスを訪問しました。メコン河に代表される豊かな自然、多様な文化、穏やかな国民性などの魅力にあふれるラオスを6年ぶりに訪問できることを大変嬉しく思います。

本年、日本とラオスは、外交関係を樹立して65周年を迎えました。その65年の間、多くの日本人が私と同じようにラオスの美しい国と人々に魅了され、二国間関係を育んできました。また、今から5年前には、長きにわたる両国の友好・協力関係を踏まえて、二国間関係が「戦略的パートナーシップ」に格上げされました。以来、両国は、地域や国際社会における協力も含め、幅広い分野で関係を深めています。

これまで日本は、ラオスの持続的な開発に向け、質の高いインフラ支援による連結性強化、農業、教育、保健、不発弾処理、法制度整備等の分野での協力や人材育成を進めてきました。例えば、日本の支援によりワッタイ空港の建設や国道9号線を整備したほか、本年5月には両国の法務関係者の緊密な協力の下、ラオスで初めての民法典が施行されました。今後も、現在策定中の次期国家社会経済開発5か年計画を後押しすべく、東西経済回廊の更なる整備、財政安定化、医療基盤の強化や防災対策を始め、引き続き貢献していきます。ラオスが持つ多様な可能性を、ラオス国民自身が開花させ、その成果をラオス国民の皆様が実感できるよう、日本もその最大限の支援、協力をしたいと考えています。

## -外交関係樹立65周年の先に-



2014年に私がラオスを訪問した際、JETROビエンチャン事務所が開設されました。当時108社だった日系企業進出数は着実に増加を続け、現在160を上回っています。物流など日系企業の投資促進のための環境整備が進展し、両国間の経済交流が更に活発化することを期待しています。また、8月1日にラオスとの間でも発効した日ASEAN包括的経済連携(AJCEP)協定第一改正議定書やRCEP協定の年内署名を通じ、日本とラオス及び地域経済との結びつきが更に深まるものと信じています。

日本とラオスとの交流は、経済にとどまりません。要人往来、議員交流、政党間交流や防衛交流に加え、青少年・スポーツ交流も盛んに行われ

ています。特に、ラオスは1965年に日本が初めて海外協力隊を派遣した国であり、以来55年間で、のべ1,000人を超える隊員が中央及び地方で教育・スポーツ、保健医療、農業、農村開発など様々な分野で活動が続いています。また、毎年約50名以上のラオスの若者が日本政府の奨学金により日本で学んでいます。この他、日本国内の各県に設立された友好協会やNGOを通じ多くの地方や学生がラオスとの交流に取り組んでいます。このように、多層的な人と人とのつながりが支えとなり、両国間の協力と信頼関係はより強固なものになっています。

こうした日ラオス関係の基盤となる人的交流が、今、新型コロナウイルス感染症によって停滞しています。ラオスでは、

党・政府の強力な指導の下、国民の団結により感染が抑制されていることに敬意を表します。人の往来やモノの流通がグローバルに拡大している今日、感染症は日本を含む全ての国の経済・社会にとっても大きな脅威ですが、未来に向かう人々の営みを足止めすることのないよう、共に立ち向かわなければなりません。

日本は、新型コロナウイルス感染症の一日も早い沈静化に向け、国際社会の先頭に立ち、各国における保健・医療体制を支援してきました。ラオスにおいては、約400万ドルの国際機関を通じた技術支援・保険医療物資支援や、二国間でも約1,360万米ドルの救急車等を含む医療関連機材の供与のための無償資

金協力を実施しています。また、日本とラオスは、感染再拡大の防止と両立する形で、ビジネス上必要な人材等の往来が再開できるよう協議を進めていきます。新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機を必ず克服し、両国国民が心待ちにしている人的往来が早期に再開されるよう連携を深めていきたいと思えます。

今回の訪問で、両国の「戦略的パートナーシップ」の力強い前進に向け、ラオスの指導者の方々と有益な意見交換ができることを心待ちにしています。

### 茂木敏充外務大臣

自由民主党 衆議院議員

昭和30年10月生まれ

平成24年12月：経済産業大臣

平成30年10月：  
経済再生担当、全世代型社会保障改革担当内閣府特命大臣  
(経済財政政策)

2019年9月～現在：外務大臣



(左) 対ラオス無償資金協力「ビエンチャン国際空港拡張計画」  
(右) 人材育成奨学計画 (JDS) 20周年記念レセプション